

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901664		
法人名	社会福祉法人高志会		
事業所名	れんげ荘グループホーム (花) 【外部評価結果は3ユニット総合評価結果である】		
所在地	大阪府高槻市三島江四丁目15-5		
自己評価作成日	令和5年1月19日	評価結果市町村受理日	令和5年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiqyosyoCd=2770901664-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiqyosyoCd=2770901664-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ぱ・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和5年2月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染症予防の為、本来ならば出来ていた外食ツアーや、買い物ツアーなど入居者様の希望に寄り添った行事が今は思うように実施出来ていませんが、季節に応じて毎月行っている食事作りでは、入居者様と共に力を合わせ毎回楽しく行っています。また、お菓子作りなども入居者様のリクエストに答え、一緒に楽しんでいきます。裏庭の畑の水やりや、草むしり等もお手伝いしていただき、職員・入居者様が協力して野菜を育てています。皆様収穫を楽しみにされ、料理して召し上がっていただいています。定期的に入居者懇談会や家族懇談会を開催し、意見や意向を確認しサービスの質の向上に努めています。また、地域との関わりも大切にしており、花いっぱい運動への参加と地域の行事・活動などに積極的に参加をしております。入居者様が日々、安心・安全に、楽しみを持って暮らせて行けるように支援していきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の生活能力維持に留意されており、日常生活の中で利用者自身が出来る事に取組続ける事を意識した支援に取り組まれており、脳トレやパズル等、五感への刺激と感覚を得られる事に配慮されています。運動能力の維持にも配慮されており、日常の中で利用者が能動的に動ける機会ときっかけ、声かけにも取り組まれています。コロナ禍の制限下において、外出機会が減少している中、利用者が外気に触れ季節を感じて頂き、気分転換にも繋がるよう、施設の畑を活用した活動の拡充が行われています。地域のボランティア等の協力も得られており、収穫や収穫後の調理加工に利用者が積極的に関わること、利用者の楽しみ、生きがい、自己肯定の機会にも繋がられています。施設周辺への散歩も継続されており、コロナ禍でも出来る事を大切にされています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【外部評価結果は3ユニット総合評価結果である】	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新たに法人の理念信条をいつでも目につくところに掲げ、リーダー会議で唱和することで共有、実践している。	法人の理念基本方針を踏まえたグループホーム独自のスローガンが設定されており、職員間で話し合っ定められた、地域密着型を意識した利用者本位の内容が策定されています。スローガンに沿った、利用者自身が能動的に生活していける環境作りを心がけられています。	日々の介護の場面で、理念・基本方針・スローガンが支援内容と連動する取組の拡充が為されると、さらなる支援の質の向上に繋がるかと思われます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は散歩の際に挨拶を交わしたり、地域の祭りや清掃活動に参加し、交流を図っている。また、法人の行事にも参加して頂いておりますが今年度は自粛させて頂いています。	地域行事・地域活動への参加が行われており、施設活動の中でも地域のボランティアの協力が得られている等、双方向の交流、協力関係が構築されています。地域の社会資源も積極的に活用されており、外食や買い物等、利用者自身が楽しめる機会の確保に努められています。コロナ禍の制限下において、従前のような実施は困難になっていますが、制限緩和に伴い、出来る事から再開・拡充を予定されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動や交流の場に入居者様、職員が参加し理解を広めています。今年度は自粛しています。また、消防訓練や防災訓練を通じて、認知症の方の理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年は、二か月に一回運営推進会議を開催しております。近況報告や活動の報告を行い、委員からの意見やアドバイスを参考にさせて頂きサービスの向上、改善に取り組み、より良いグループホームを目指しています。今年度は、書面にて開催しています。	地域住民・敬老会・民生委員・自治会長・行政・他福祉施設・家族・利用者の参加があります。コロナ禍の制限下において、書面開催にて代替されています。参加者からは書面や電話等による意見が聴取されており、内容がフィードバックされています。参加者からの意見を基に、報告共有する資料や内容の拡充に繋がられた事例の確認が出来ました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問は一か月に一回あり、施設内の問題や改善点など話し合っている。今年度は市より一時停止の連絡がきました。	運営推進会議を中心に、市との情報共有・情報交換が行われています。市が直接運営推進会議に出席されることによって、迅速な情報共有・情報交換に繋がられています。市の介護支援相談員が定期的に訪問されており、利用者にかかる支援の向上に繋がるよう活用されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを製作し、定期的に施設内においても研修を行っており全職員に周知している。	法人全体で、拘束並びに虐待にかかる適正化委員会が開催されており、委員会の内容を踏まえた共有と、研修が実施されています。口頭による拘束に繋がる制止言葉にも留意されており、職員から利用者への言動による抑制や拘束や虐待に繋がらないよう努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基づくマニュアルを製作しており、定期的に勉強会や施設内での研修を行い、全職員に意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修、管理者研修など外部の研修で学んだ内容を施設内での勉強会などで共有している。また、個々に必要な時は関係者と相談し活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や、重要事項説明書をしっかりと説明させて頂き、疑問や質問などを聞き取り、納得された事を確認している。時間をかけてわかりやすく説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者懇談会を定期的に行っており、意見や要望をまとめスタッフ会議で取り上げ問題などの解決について話し合っている。日ごろから、入居者様との信頼関係を築き、コミュニケーションをよくとり、話しやすい場面を作っている。	従前は、家族懇談会が定期的に行われておりましたが、コロナ禍の制限下において、積極的な面談や交流が困難である事から、電話による意見聴取を意識されています。運営推進会議では、利用者・家族等からの意見聴取も行われ、取組の変更や改善にも繋がられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議にて意見や提案などを聞いている。その後の運営に役立てており、普段より、職員が意見を言いやすい関係を築いている。	毎月行われるフロア会議により、職員個々の意見を聴取しやすい環境整備を日常より行われており、また、開催毎に志会や記録係を変えることによって、能動的な会議運営となるよう努められています。フロアリーダー以外に直接職員が意見を言うこともでき、年一回管理者と職員の個別面談も意見を発することが出来る機会となっています。職員の意見を基に、食事提供方法に関する改善に繋がられた事例が確認できました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に一回職員の評価、面談を行っている。面談を通して職場環境の改善に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員に対し介護技術や知識を指導し、確認している。また、個々の職員の課題を見極め、必要に応じて研修を受けるように取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>例年は各事業所の会議や勉強会、合同の行事への参加を通じて他事業所との交流を行っている。今年度は書面やオンラインにて参加しています。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談の際、本人とのアセスメントを通して浮かびあがった問題解決に向けてモニタリングをし、入居者様からの要望に対応できるように努める。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを導入するまで密に連絡を取り合い家族様の要望をしっかりと把握できるように努めている。導入後も面会時や、電話などで家族様からの要望や、相談に対応している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントを通して浮かびあがった課題の解決に取り組んでいる。また、日常生活の中での入居者様からの要望に対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中でのコミュニケーションを大切にしており、会話を楽しむように心がけている。また、入居者懇談会を2か月に1度開催し、入居者の要望をくみとり、家事のお手伝いをして頂いたり、スタッフに色々とアドバイスを頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議等で意見交換をし、家族の絆、支援が重要である事を理解して頂き、本人との関りを大切にしている。家族を含めてプラン作成に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との電話や、お手紙のやり取りは、要望があれば支援している。例年は、馴染みの場所や趣味の場所などにも外出支援を行っており、関係が継続出来る様に努めている。今年度は自粛しています。	コロナ禍の制限下において、従前のような面会や外出が困難となっていますが、電話や手紙による交流の維持、手紙支援の拡充等に取り組まれています。馴染みの社会資源の活用で、訪問・活用・利用したりといった事も、従前は行われていたましたが、実施困難な状況が続いていました。制限緩和に伴い、出来る事から、再開拡充されていく予定です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や気の合う入居者様同士の関りを工夫したり、他者との関りが得意では無い方に対し、一体感を感じる事が出来る環境づくりにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も年賀状や、広報誌の送付などを行っており、関係を継続する体制に努めている。家族様からの相談にのることもある。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの実施や日々の様子観察やモニタリングを繰り返し行っている。日々の関わりの中で本人の意向に努め、思いを表現出来ない方には、表情やしぐさで確認している。職員で情報共有し穏やかに過ごせるように努めている。	利用開始時より、利用者の発する言動を大切にし、記録共有することで、利用者の思いや意向の把握と、実現に向けた計画策定に繋げられるよう努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人からの情報や、前担当者からの情報提供にて把握している。また、日常会話の中からも紐解き、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での表情などを観察し、生活状況、リハビリの状況等、申し送りなどを通じて情報交換や、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の多職種を含めたフロア会議でモニタリングを行っており、情報交換、課題を話し合いケアプランに活かしている。本人や家族の意向を反映させ介護計画を作成し、3か月毎にモニタリングを行い、半年毎に見直しをし、変化があった場合は随時見直しを行っている。	毎月のフロア会議で、利用者の課題等が共有され検討されています。利用者の意向を確認し、専門職種を加えた担当者会議を経て、計画の策定へと繋がられています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援内容や過ごし方を具体的に記録し内容を、把握している。また、職員や看護師からの情報を得ながら定期的に、評価、考察を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の時に情報提供や、れんげ診療所の医師の回診、訪問歯科、皮膚科、神経内科の往診、訪問看護など多様なニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの協力や社会資源の活用について協議を行い、入居者様一人ひとりがより良い生活が送れるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人と家族の希望を尊重しこれまでのかかりつけ医に受診できるように配慮、支援している。状況に応じて職員が同行したり、電話や手紙で状況説明をしている。本人と家族が納得した上で定期的に受診出来るように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は、利用者・家族の意向によって決定されています。提携医療機関では、月二回の内科往診があり、利用者の希望によって、歯科・整形外科・皮膚科の往診が受けられています。看護師の24時間オンコール体制が整えられており、適切な判断で迅速に必要な医療に繋げられるよう努められています。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎朝夕の申し送りの際に、看護師に入居者様の体調面を報告し、状況把握して、急変時の対応も行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、必ず医療機関の相談員に連絡し情報の共有をしている。電話での情報交換をし合える体制が整っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時には延命処置の有無を確認している。終末期を迎える前に、本人、家族、主治医との話し合いを行い、今後の対応を検討している。</p>	<p>重度化に関する指針が設定されており、説明が行われ同意が得られています。看取りについては、利用者の状態を踏まえ、同一法人内の特別養護老人ホーム等適切な施設への移行が早期から丁寧に行われています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作成し周知している。内部研修や勉強会などで、応急手当や急変時の訓練を行っている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設において防火管理者を定め年二回の避難訓練を実施している。また、月二回の自衛消防訓練にて、入居者様、職員が避難方法を把握している。数時間の備蓄食、水を蓄えており、炊き出しなどの訓練も実施している。</p>	<p>毎月、火災・地震の訓練が実施されています。飲料水・食料の備蓄品が用意されています。法人全体として、地域支援も踏まえた、全体的な備蓄構想も検討中です。地域と協働した訓練等も従前は行われていました。コロナ禍の制限緩和に伴い、地域を含めた体制の再構築を行って行く予定です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、誇りをもって生活が送れるように支援している。排泄入浴などの対応時にはプライバシー保護に十分配慮し、同性介助にも対応している。	日々の支援の中では、利用者の尊厳を大切にし、羞恥心に繋がるような言動とならないことに留意されています。利用者の思いを大切にすることが人格の尊重の基本であると考えられており、思いや意向の把握の拡充に努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において本人の希望を聞き取り、選択肢を提供し、支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、心身状況に合わせた柔軟な支援を行っている。食事や入浴などは個々のペースに合わせて支援を行っている。また、要望があれば対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、入居者様が着たい洋服を着ておられます。外出の際には自身で帽子を被るなどされ、オシャレを楽しまれています。月に1回の訪問理美容も依頼しており、希望を伺っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事時、テーブルを拭いて下さる方や、食器の洗いをして下さる方など、職員と共に行っています。また、個々に食べたいものなどをお聞きして、月1回は必ず食事調理レクリエーションを入居者様と一緒にしています。例年は、外食ツアーも行っているが、今年度は、自粛しています。	料理の温度管理に留意し、適温での提供を意識されています。利用者自身が出来る事を大切に、可能な範囲での協働が行われています。利用者個々の嚥下咀嚼能力に応じた、食材の提供を意識されています。食事レクリエーション等、利用者の意向を踏まえたメニューや内容で、作る楽しみ、食べる楽しみを間実事が出来るよう配慮されています。施設の畑を活用し、利用者自身が栽培した野菜等を、自分たちで調理し、楽しみながらの食への参加が行われています。行事食や行事にちなんだ、おやつ作り等も行われており、利用者が楽しみながら参加できる機会の拡充が図られています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が少ない方に関しては家族様に相談し、栄養補助食品などで対応している。水分摂取量が少ない方には好みの飲料水を提供させて頂いたり、家族からの差し入れ等を提供している。必要に応じて摂取量を記録し脱水にならない様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを声掛けし、見守り、一部介助などで実施し、異常があれば、随時、歯科医に報告、相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄記録をつけ、排泄パターンを把握し、声掛け誘導支援を行うことで、出来るだけ、トイレ内での排泄を試みている。また、支援方法の見直しや、ポータブルトイレの検討も行っている。	排泄自立が維持出来ている利用者の割合が高く、自立維持を意識した、排泄支援を大切にされています。利用者個々の排泄ペースを大切に、パターン的で押しつけとなるような、声かけや誘導に繋がらないよう配慮されています。誘導時には、利用者の尊厳やプライバシーを損ねることのないよう、声かけや動作に留意されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、夕の運動レクリエーションに声掛けし参加して頂いています。水分不足にも注意しており、補給も心掛けています。排泄記録表を用いて排便のサイクル、便秘の把握を行っており、便秘の際には、看護師に報告し投薬の指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週に3回の入浴となっていますが、気分がのらない日や、体調がよくない時などは、柔軟に対応している。入浴の声掛けを行い、準備を一緒にさせて頂いている。季節感のある入浴剤など、変わり湯を楽しんで頂いている。	週3回の予定浴が基本ですが、利用者の体調や意向を踏まえた柔軟な対応が行われています。入浴タイミングの変更や、シャワー・清拭等、個々の場面の沿った、支援に対応されています。入浴支援では、利用者との対話を大切にされており、利用者から発せられる言葉や、対話で得られた情報が、職員間で共有し活用できるよう努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた休憩時間の確保や室温、湿度の管理を行っている。また、夜間帯での巡回時、様子観察も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理の元、適切な服薬支援と症状の変化の確認に努めている。薬の用法や副作用は紙面にて確認を行っており、職員共有している。法人の看護師と連携し必要に応じ薬について尋ねたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の習慣や趣味を把握し、やりたい役割を持てるように支援している。洗濯物を畳んで頂く事、掃除、洗い物など今までの生活歴を継続出来るように個々に支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は年間を通して散歩に出かけ、外気に触れ、日あたり四季を感じる事が出来ていた。また、外食・買い物ツアー、車に乗り公園に出かけるなどの企画をし、楽しみを感じられる支援を行っています。今年度は自粛しています。	従前は、施設周辺を中心に、散歩や散策が行われ、戸別の買い物等にも対応されていましたが、コロナ禍の制限下において、可能な範囲が制限されているのが現状です。車両による移動での外出等、可能な範囲での外出継続を心がけられています。制限緩和に伴い、従前のような外出機会の再開と拡充が予定されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	居室にて管理されている方が数名おられます。買い物ツアーや、パン販売などで自分で商品を選び購入できるように支援している。今年度は自粛しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいとの要望があれば通話の支援をしている。1階に公衆電話も設置している。郵便物のやり取りも必要時に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には、季節を感じられる壁画を入居者様と作り、四季に応じ飾りつけをして楽しんでいる。リビングの電球は目に優しいLED電球に切り替えている。日当たりのよいリビングには、ロールカーテンを使用し、入居者様が、調節して下さっている。温度、湿度、換気は職員にて確認し快適になるように調整している。	共用空間は、温度・湿度・採光に留意されており、快適な環境構成に留意されています。フロアには、ソファやテーブル、椅子が複数配置されており、個々の利用者が思い思いの場所・スペースを確保して過ごせるよう配慮されています。壁面には、利用者の作品や季節を感じられる装飾等が為されています。直近の行事時写真等も飾られており、利用者が行事を思い出したり、楽しい思い出等を語るきっかけにも繋がられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを二台設置しており、ひとりの時間を楽しんでいたり、気の合う入居者様同士で会話を楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が長年使用していた家具や、衣類、記念の写真などを持って来られており、設えておられます。自室で落ち着いて過ごせる様に配置も本人や家族様の意向を配慮し相談しながら行っている。	居室内は利用者の意向を最大限の尊重し、安全に支障のない限り、配置等含め、利用者が思い思いの家具・備品・装飾品を持ち込んだ居住空間を構成されています。利用者自身がくつろげ、心安まる空間となる環境整備に努められています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の一人ひとりの出来る事を把握し、安心・安全に暮らして頂ける様に職員会議で話し合っている。また、私物等は、居室担当者と相談している。浴室やトイレ、自室の場所がわかりやすい様に表示している。		